

薬 剤 部

1. スタッフ

薬剤部長	長谷部忠史
副薬剤部長	大塚 潔 猪股ふみ子 鈴木 栄
主任薬剤師	中澤美智子 村岡 篤 石井 香織 井上 雅美 立石 直人 木村 正彦 新津 京介 遠藤 啓之
薬剤師	計58名

2. 薬剤部の特徴

質の高いファーマシューティカルケアを目指し、医薬品の適正使用の推進による治療効果の向上と患者の安全管理への貢献、病棟など院内における医薬品に関するインシデント・アクシデントの減少、薬剤師の専門性を活かしたチーム医療の中で責務を果たせるよう業務に取り組んでいる。

3. 業務内容と実績

1) 業務内容

①調剤業務

外来処方箋は2006年10月より院外処方を原則としている。薬剤部では外来診察室で発行された院外処方箋の全てを処方監査する体制をとり、用法・用量、相互作用等の確認を行い安全な薬物療法を心がけている。また、在宅療養に必要な医療

材料等も薬剤部で対応し、必要がある患者さんには実地指導しながら説明をしている。2021年3月には外来の薬剤部カウンターに投薬表示版も新規導入した。

入院調剤に関しては、原則、一包化調剤を行い病棟での医薬品に関する事故防止の観点を中心に業務を展開している。また、2020年3月から、全自動錠剤分包機、薬袋印字システム等を含めた薬剤業務支援システムを導入し業務効率化を行った。また、2021年9月にはGS1データバーを用いた監査システム（Hp-PORIMS）を導入し、ピッキングミスはほとんどなくなった。

注射薬調剤は、入院・外来問わず全ての処方監査を行った後、患者個人単位・一回量ごとの取りそろえを実施しており、TPNの調製、危険薬剤（抗がん剤など）の混合・調製、外来化学療法における患者指導などの業務も行っている。

外来化学療法においては、抗悪性腫瘍剤の投薬又は注射の必要性等を指導する「がん患者指導管理料ハ」を算定している。また、地域調剤薬局と連携充実加算及び薬剤情報提供書（トレーシングレポート）による連携強化を実施している。日本臨床腫瘍薬学会のがん診療病院連携研修の認定施設として登録しており年間2～4名の保険薬局薬剤師の研修生の受け入れを行っている。

②医薬品管理業務

医薬品管理としては、センター内で使用する医薬品の安定供給のほか病棟在庫

を原則として置かないことにより医薬品の利用効率を上げ、デッドストック等による医薬品の期限切れを防止している。

また血液製剤を中心とした特定生物由来製剤医薬品の記録管理も実施している。

③医薬品情報業務

院内の医療スタッフからの医薬品に関する問い合わせに対応するほか、新規採用薬を含めた医薬品全般における電子カルテシステム COSMOS の処方・注射オーダーマスタ、医薬情報関連マスタのメンテナンスや薬剤部門システムの管理も行っている。

DI News や添付文書改訂情報等を随時発行し、積極的な情報提供を行っている。また、医薬品情報一元管理システム (JUS D.I.) を随時更新し、COSMOS 上から最新の医薬品情報の検索が可能となるようメンテナンスしている。

④製剤業務

当センター患者さんに供する医薬品で、治療上必要であるにも拘わらず市販されていない薬剤の調製を行っている。

調製している製剤には一般製剤と無菌製剤とがあり、前者には散剤、軟膏剤、内用液剤、外用液剤など、後者には外用液剤などの滅菌作業や、クリーンベンチや無菌室内で製造するもので無菌操作を必要とする点眼剤・注射剤の調製等を含む。

⑤病棟薬剤業務

様々な病棟薬剤業務に取り組むことで、薬物治療の質や医療安全の向上、さらに医師・看護師等の負担軽減にも貢献することを目的に、内服薬は用法・用量

の確認に加え配薬業務も行い、注射薬も同様に用法・用量や配合変化等の確認に努めている。集中治療室においてはプロトコールに基づく薬物治療管理 (PBPM) に沿って抗菌薬の投与支援を行っている。

さらに医師や看護師など他の医療スタッフへの情報提供や、入院期間の短縮、DPC の導入などの環境の変化に対応するため、特に入院時の持参薬のチェックや退院時の服薬指導など薬剤管理指導業務にも力を注いでいる。また、病棟業務支援システム (Pharma Road) の導入により業務効率化を行っている。

2) 業務実績

(2023年1月～2023年12月)

①外来調剤に関すること

外来処方箋枚数 (院内調剤分)	15,254
院外処方箋枚数 (発行率 %)	151,126 (90.7%)
外来注射処方箋枚数	73,842

②入院調剤に関すること

入院処方箋枚数	134,761
入院注射処方箋枚数	264,389

③製剤に関すること

TPN 調製件数	2,132
抗がん剤混合調製件数	20,815

④PFM・看護面談介入に関すること

PFM 介入件数	4,719
看護面談介入件数	3,393

⑤薬剤部学生実習受入に関すること

受入人数	42
------	----

【専門的技術、知識を有する薬剤師の育成】

埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター 生涯研修認定薬剤師	20名
日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師	2名
日本薬剤師研修センター 漢方薬生薬認定薬剤師	1名
日本くすりと糖尿病学会 糖尿病薬物療法認定薬剤師	1名
日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師	5名
日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師	1名
日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療専門薬剤師	3名
日本腎臓病薬物療法学会 腎臓病薬物療法認定薬剤師	1名
日本臨床栄養代謝学会 栄養サポート チーム専門療養士	4名
日本救急医学会認定 ICLS・BLS コース インストラクター	1名
日本アンチドーピング機構 スポーツ ファーマシスト	3名
日本化学療法学会 抗菌薬化学療法認定薬剤師	2名
日本臨床薬理学会 認定 CRC	1名
循環器病予防療養指導士	1名
日本核医学会 核医学認定薬剤師	1名
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	2名
日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師	1名
日本臨床救急医学会 救急専門薬剤師	1名
糖尿病療養指導士	5名
日本薬剤師研修センター 小児薬物療法 認定薬剤師	1名
日本腎臓病協会 腎臓病療養指導士	2名
日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師	1名
日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師	1名
日本麻酔科学会 周術期管理チーム認定	2名
アレルギー疾患療養指導士	2名
日本循環器学会 心不全療養指導士	1名
日本麻酔科学会 術後疼痛管理研修終了	1名
日本薬剤師研修センター 認定実務実習 指導薬剤師	7名
日本 DMAT 隊員 業務調整員	2名
普通第一種圧力容器取扱作業主任者	1名
埼玉県肝炎コーディネーター	2名
公益財団法人エイズ予防財団 HIV 検査 相談研修会	1名

4. 研究・学会活動等

＜2023年学会発表＞

第65回日本糖尿病学会年次学術集会
(2022.5.12～14)

「糖尿病薬の手術およびヨード造影剤使用前後の休薬に関する実態調査」

「2型糖尿病治療強化における GLP1受容体作動薬セマグルチドの有用性と効果予測因子」

第17回医療の質・安全学会学術集会
(2022.11.26～27)

「ピッキングサポートシステム導入における調剤業務への期待と課題」

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 (2022.3.12～13)

「薬局・病院薬剤師共同による抗がん剤フォローアップシートの作成 ～さいたま地域連携 Network・がんワーキンググループ～」

第14回日本がん薬剤学会学術大会 (2022.5.8)

「症状から導く irAE 対応アルゴリズムの活用」

日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会
(2022.10.29～30)

「腎機能低下症例に対する投与量チェックマニュアルの効果」

病院薬剤師会関東ブロック (2022.8.20)

「クリニカルパス変更による経口抗菌薬使用量への影響調査」

＜2023年投稿＞

月刊薬事2023年8月号（第65巻 第11号 P158）

ジャーナルクラブの広場 循環器急性非代償性心不全に対するループ系利尿薬とサイアザイド系利尿薬の併用－CLOROTIC 試験

＜2023年度講演会＞

2023年6月8日

第3回循薬ネット WEB Journal Club

2023年10月25日 27日

- 実務事前実習Ⅱ（日本薬科大学）
90分講義
救急医療と薬剤師の関わり
救急×心不全症例に学ぶ
感染症、TDM
2023年3月16日
さいたま市腎疾患対策講演会2023
講演名：CKD患者に薬剤師ができること
- 2023年5月16日
Insulin Update Seminar
講演名：インスリン療養支援と薬剤師の関わり
- 2023年6月20日
第7回埼玉腎と薬剤研究会
講演名：透析患者の薬物療法適正化に向けた薬剤師の支援～CKD-MBDを中心に
- 2023年9月7日
さいたま地域連携NetWork～インスリン支援 達人への道（最初の一步）
講演名：インスリン療養支援と薬剤師の関わり インスリン患者フォローアップを共有しよう
- 2023年9月12日
第2回多職種連携カンファランス
講演名：がん領域における腎臓病・糖尿病患者の薬学的管理
- 2023年11月6日
Pharmacist web seminar
講演名：薬剤師による糖尿病神経障害への治療介入を考える～感覚神経障害を中心に～
- 2023年3月13日
腎疾患 Update Seminar
講演名：「薬剤師が目すべき腎機能指標～院外処方箋への検査値記載始めます！」
- 2023年10月28日
第17回日本腎臓病薬剤療学会学術集会・総会
講演名：「eGFR低下速度に影響を与える患者背景因子の調査～糖尿病透析予防外来患者での検討」
- 2023年6月17日
私立医科大学感染対策協議会 薬剤師専門職部会
講演名：「機能評価（一般病院2）を意識した感染担当薬剤師の活動」
- 2023年5月10日
第7回がん治療認定薬剤師オンライン講座
演題名「肺癌における基本知識の習得」
- 2023年5月15日
さいたま地域連携ネットワーク抗がん剤勉強会
演題名「さいたま医療圏におけるチーム医療を創造する～抗がん剤フォローアップシートによる副作用重篤化予防～」
- 2023年6月12日
irAEマネジメントセミナー～免疫チェックポイント阻害薬を安心して使用していくための取り組み～
演題名「薬剤師が行うirAEマネジメント～irAE対応ツールの活用と連携～」
- 2023年7月19日
第15回がん治療認定薬剤師オンライン講座
演題名「支持療法（irAE）・症例の書き方」
- 2023年7月31日
第16回がん治療認定薬剤師オンライン講座
演題名「支持療法（皮膚障害）・症例の書き方」
- 2023年9月23日
制吐療法を考える会 in さいたま

演題名「薬剤師目線でみる悪心嘔吐マネジメントのポイント」

2023年10月8日

第3回 妊娠と薬情報研究会学術集会
演題名「当院で経験したネフローゼ患者への母乳育児支援」

2023年6月8日

地域社会振興財団 薬剤師研修会
災害医療における薬剤師の関わり

2023年8月30日

第4回 薬剤師に必要な災害対策勉強会
@埼玉
災害医療における地域連携の現状と今後の課題と思われること

5. 事業計画・達成度・今後の目標

1) 2023年の事業計画・達成度

●事業計画（目標）

薬剤管理指導料の件数増加と退院時薬剤情報管理指導料の更なる増点を目指す。

2022年診療報酬改定において、バイオ後続品導入初期加算が外来腫瘍化学療法診療料及び外来化学療法加算においても算定可能となったため今まで以上の積極的な導入を目指す。さらに、術後疼痛管理チーム加算取得を目指す。

PFMにおいて今後の対象診療科増加に対応する。

●達成度評価

薬剤管理指導料等（回）

薬剤管理指導料1（380点）	17,146
薬剤管理指導料2（325点）	10,987
退院時薬剤情報管理指導料	10,019

連携充実加算等（回）

連携充実加算（150点）	1,101
--------------	-------

術後疼痛管理チームの一員として346人（2023/1～12）の加算に貢献している。

2) 2024年の目標等

「がん薬物療法体制充実加算」に関して、積極的に取り組んでゆく。また、薬剤師が処方入力代行業務（持参薬のDO処方）等のタスクシフトを行なうことが、不必要な処方変更を減らし、ひいてはインシデント削減、患者サービス向上につながると考える。本年度は、一部の病棟で処方入力代行業務を開始する。

「バイオ後続品使用体制加算」も算定可能となったため今まで以上の積極的なバイオシミラーの導入を目指す。